

時評 令和6年年頭所感 経済産業省 永井岳彦..... 1

《小特集 金属有機構造体の実用化最前線》

金属有機構造体の実用化

.....北海道大学 鄭 キン, 日本製鉄 上代 洋..... 2

有機金属構造体(PCP/MOF)は、新世代の多孔体として、炭化水素分離やガス分離等への応用が検討されている。分子構造が変化してガスを吸脱着するPCP/MOFは、既存多孔体を上回る高効率な分離が期待されている。

晶析技術を応用した安価・高品質のMOF製造方法

.....ユーズオ 山崎康夫..... 8

MOFは画期的な多孔性物質で、CO₂の吸着分離材、H₂の吸蔵材料として注目され、安価で大量生産する製造方法の確立が求められている。晶析技術を応用した新規製造方法を示した。

日本におけるバイオマス発電の現状と今後の役割

.....ENEOS 藤田高生.....16

世界的な脱炭素化の流れを受けた日本における将来的な電源構成の中において、バイオマス発電をはじめとした再生可能エネルギー（太陽光、風力など）の重要性がますます高まっている。

森林と木材の炭素ストック機能 東京農工大学 加用千裕.....21

気候変動対策として森林・木材の炭素ストック機能が注目されている。京都議定書やパリ協定での森林・木材の取り扱い、世界と日本における森林・木材の炭素ストック機能、今後の課題や展望等を概説した。

東京工業大学で研究・教育職からダイバーシティ推進室に 異動してわかった大学の本気度

..... 東京工業大学 野村淳子.....28

「ダイバーシティ関連1年生」が大学の推進強化の波に乗り、溺れないよう奮闘しながら見てきた、大学の方針と取り組み、特に女性の増員と活躍支援について紹介した。

上流開発企業のベンチャーキャピタル戦略

— GFANZ傘下8番目のアライアンス Venture Climate Alliance

の設立— エネルギー・金属鉱物資源機構 古藤太平.....41

金融業界ではGFANZ傘下に気候変動関連ベンチャーの団体が設立されるなど研究・開発段階の技術に重心が置かれるが、上流開発企業では投資減税等の財政的支援の拡充を受け事業化・産業化段階の取り組みが進んでいる。

PETROTECH JAN. 2024 VOL.47 NO.1

本誌の内容・企画に関してご意見・ご要望を E-mail (book@sekiyu-gakkai.or.jp) でお寄せください。

工業化触媒シリーズ

- (10) 脱水素環化触媒 出光興産 黒澤有起 48
 (11) キシレン異性化触媒 日揮ユニバーサル 西岡孝浩 50

二酸化炭素の地中貯留

- ネットゼロシナリオの中での役割と貯留能力について考える — (上)
 INPEX ソリューションズ 難波隆夫 54

ネットゼロシナリオの中で二酸化炭素の地中貯留はどのように位置づけられているかを整理するとともに、上編では地中貯留メカニズム、地中貯留能力と適地選定過程について解説した。

目次裏統計	世界の石油資源	目次裏
私の宝物自慢	ロンジン製のクォーツ腕時計	15
最近始めたこと	料理等	15
ふるさと自慢	石川県(白山市), 千葉県(船橋市)	27
私事白書	回収したタイムカプセル	片山ナルコ 松島千里 36
トピックスニュース		37
My 研究室ライフ	大阪公立大学 資源環境化学研究室	大阪公立大学 末廣和真 40
エネルギー知ってるはず!?	(108) ネガティブエミッション技術	52
讃嘆石油史!	岡田敬吉氏, 新潟インテグを語る 新潟製油所, 被災 (3)	沙外白雲 53
JPIJS だより	コロキウム 2023 参加報告	大阪大学 藤本彬仁 60
溶接士検定委員会報告	溶接功労賞表彰式	61
Journal of the Japan Petroleum Institute	第 67 巻第 1 号掲載論文	62
学会の窓		64
会告		巻末